

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

中日の近代哲学・思想の交差とその実践 第11回共同研究会
西田幾多郎没後80周年記念シンポジウム

2. 主宰責任者氏名

廖欽彬(中山大学教授)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

開催日 2025年1月25日(土)

【講 演】

時 間:10:00-11:00

司会者:嶺秀樹(関西学院大学)

講演者:藤田正勝(京都大学)

テーマ:「精神病理学と哲学のあいだ—西田幾多郎と木村敏」

【発 表】

時 間:11:00-11:40

司会者:福家崇洋(京都大学)

発表者:浅見洋(西田幾多郎記念哲学館)

テーマ:「終末期ケアのパラダイム転換と西田幾多郎の終末論—エンドオブライフケア成立の背景」

時 間:11:40-12:20

司会者:秋富克哉(京都工芸繊維大学)

発表者:杉村靖彦(京都大学)

テーマ:「物来りて何を照らすか?—西田哲学と「もの」の現在」

昼休み:12:20-13:30

【パネル】:13:30-14:30(60分、一人15分)

共通テーマ:【越境する知としての西田哲学】

パネラー :福家崇洋(京都大学) 「西田幾多郎と経済学」

広瀬一隆(京都府立医科大学・京都新聞) 「惨劇の遺族を取材する意味—西田哲学を通して考える」

張政遠(東京大学) 「AI 西田幾多郎について」

廖欽彬(中山大学) 「西田幾多郎の場所論とメディア、AI」

司会者:浅見洋(西田幾多郎記念哲学館)

【発 表】

時 間:14:30-15:10

司会者:杉村靖彦(京都大学)

発表者:フォンガロ・エンリコ(南山大学)

テーマ:「芸道・武道における永遠の今の自己限定の体験」

休 憩:15:10-15:20

時 間:15:20-16:00

司会者:フォンガロ・エンリコ(南山大学)

発表者:太田裕信(愛媛大学)

テーマ:「ニヒリズムと宗教—西田幾多郎と西谷啓治のドストエフスキイ解釈をめぐって」

時 間:16:00-16:40

司会者:太田裕信(愛媛大学)

講演者:中嶋優太(石川県立看護大学)

テーマ:「西田幾多郎新資料研究の現在」

休 憩:16:40-16:50

時 間:16:50-17:30

司会者:広瀬一隆(京都府立医科大学・京都新聞)

講演者:郭旻錫(京都大学)

テーマ:「東アジア哲学における二つの形而上学—西田幾多郎の「実在」と熊十力の「実体」について」

【総合討議】17:30-18:20

司会者:廖欽彬(中山大学)

コメントーター:嶺秀樹(関西学院大学)、秋富克哉(京都工芸纖維大学)、有坂陽子(ヒルデスハイム大学)

4. 概要(400字程度)

2025年は戦後80年であり、西田幾多郎没後80周年にもあたる。本シンポジウムは、課題公募班「中日の近代哲学・思想の交差とその実践 第11回共同研究会」の一環で行われた。「越境する知としての西田哲学」というテーマを設定して、西田幾多郎没後80周年記念シンポジウムを開催することを通じて、西田哲学と現代社会とのかかわりを考察しつつ、その哲学の学際的な性格やさまざまなポテンシャルを模索しようと試みるものであった。国内外から西田幾多郎の研究者10数名を網羅する形で実施された本シンポジウムは、哲学以外の分野と西田幾多郎の思想を絡めて論じることで、哲学研究者にとどまらず、他分野の研究者や市民に向けた講演、報告が実施され、全体を巻き込んだ活発な討論が実施された。事前に新聞でシンポジウムの紹介が行われたため、予想を超える約70名が参加した。

5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

学外

嶺秀樹(関西学院大学)

浅見洋(西田幾多郎記念哲学館)

フォンガロ・エンリコ(南山大学)

秋富克哉(京都工芸纖維大学)

有坂陽子(ヒルデスハイム大学)

太田裕信(愛媛大学)

中嶋優太(石川県立看護大学)

張政遠(東京大学)

広瀬一隆(京都府立医科大学・京都新聞)

廖欽彬(中山大学)

学内

藤田正勝(京都大学)

杉村靖彦(京都大学)

郭旻錫(京都大学)

所内
福家崇洋(京都大学)

6. 助成金の使途等
国内旅費に使用

7. その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

本シンポジウム開催前と開催後に『京都新聞』に「京都学派の源流・西田幾多郎没後80年、記念シンポを25日京都大で開催」(2025年1月23日)、「京都学派の源流、西田幾多郎の思索を今こそ 終末期ケア、武道、AI「現代人の指針に」(2025年1月31日)の記事がそれぞれ掲載された。あわせて、シンポジウム当日に NHK 富山が番組作成に用いるために映像取材に訪れた。

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
人文研所属 (下段:女性数)	1	3					3				
		0					0				
京大内(人文研を除く) (下段:女性数)	3	5			3	2	5			3	2
		1			0	1	1			0	1
国立大学 (下段:女性数)	3	3					3				
		0					0				
公立大学 (下段:女性数)	2	2					2				
		0					0				
私立大学 (下段:女性数)	2	2					2				
		0					0				
大学共同利用機関法人 (下段:女性数)											
独立行政法人等公的研究機関 (下段:女性数)											
民間機関 (下段:女性数)											
外国機関 (下段:女性数)	2	2	2				2	2			
		1	1				1	1			
その他 (下段:女性数)		55					55				
		5					5				
計	13	72	2		3	2	72	2		3	2
		7	1		0	1	7	1		0	1

【その他の参加状況】

※「その他」の区分受入がある場合、具体的な所属等名称を記載
例) 高校教員
無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

※若手の研究者が何人参加したかを把握するためのものとなりますので、わかる範囲で記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください。

(例) 国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した：受入人数2人、延べ人数6人

※海外研究者、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)について

海外研究者…本務所属が海外の研究機関である研究者を記入してください

40歳未満…「35歳以下」「大学院生」を含む「40歳未満」を記入してください

35歳以下…「大学院生」を含む「35歳以下」を記入してください

(例) 35歳の海外研究者の場合 →「海外研究者」1人、「35歳以下」1人

33歳の研究者の場合 →「40歳未満」1人、「35歳以下」1人

※受入人数、延べ人数については上段に総数を、下段(黄色枠)に女性の内数を記入してください。

※「京大内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。